

令和5年度新潟県原子力防災訓練 実施結果

柏崎市危機管理部防災・原子力課

1 概要

国、地方公共団体、原子力事業者等が合同で実施する国の原子力総合防災訓練と一体となって実施した。

2 目的

- (1) 柏崎市地域防災計画（原子力災害対策編）に基づき、国、県、関係市町村及び防災関係機関の相互の連携による原子力災害時の体制・対応を確認するとともに、防災業務従事者の対応力の向上・習熟を図る。
- (2) 住民参加により、原子力災害時の防護措置に対する理解の向上を図るとともに、訓練の結果を検証し、住民避難における問題点や課題を抽出し、現行の計画の見直しや具体化につなげる。

3 実施時期

令和5年（2023年）	10月27日（金）	午後2時から午後6時まで
	10月28日（土）	午前7時30分から午後6時30分まで
	10月29日（日）	午前8時から午後3時まで
	10月31日（火）	午後3時から午後5時まで
	11月1日（水）	午後3時から午後5時まで
	11月8日（水）	午後1時45分から午後3時まで
	11月9日（木）	午後1時45分から午後3時まで

4 主催及び主管

主催：新潟県 主管：柏崎市防災会議

5 参加機関

国（内閣官房、内閣府、原子力規制委員会等）、新潟県、柏崎市、県内市町村、関係機関（自衛隊、海上保安庁等）、柏崎市消防団、東京電力ホールディングス株式会社 ほか

6 訓練想定

柏崎市、刈羽村等で震度6強の地震が発生し、唯一運転中の柏崎刈羽原子力発電所7号機において、原子炉が自動停止。その後、炉心冷却機能の一部が喪失し施設敷地緊急事態となり、炉心冷却機能が喪失し全面緊急事態となる。その後、炉心が損傷し、放射性物質が放出され、一時移転が必要な空間放射線量の上昇が認められた状況になる。

7 訓練項目

10月27日（金）、28日（土）

- (1) 柏崎市災害対策本部運営訓練（市役所3階 災害対策本部会議室）
- (2) オフサイトセンター運営訓練（柏崎刈羽原子力防災センター）
- (3) 緊急時通信連絡訓練（市役所3階 防災・原子力課執務室）

10月31日、11月1日、8日、9日

- (4) 学校等における保護者への引渡し訓練（小学校・保育園）

10月31日（火） P A Z : はらまち保育園

11月 1日（水） U P Z : 高田保育園

11月 8日（水） P A Z : 榎原小学校

11月 9日（木） U P Z : 新道小学校

10月28日（土）

- (5) P A Z内住民の船舶・ヘリ・バスによる避難訓練
西中通地区（船舶）、中通地区（ヘリ（中止）・バス）、二田地区（ヘリ・バス）
- (6) U P Z内住民の屋内退避訓練（市内U P Z内地区の全住民対象）

10月28日（土）、29日（日）

- (7) U P Z内住民のバス及び自家用車による一時移転訓練（高田地区）
- (8) 安定ヨウ素剤緊急配布訓練（(5)、(7)のバス避難集合場所）
- (9) スクリーニング・簡易除染訓練（上越市 直江津港南ふ頭緑地公園）
- (10) 広報活動訓練（防災行政無線及び緊急速報メール・エリアメール、ホームページ、ソーシャルメディア（フェイスブック・X（旧ツイッター）・LINE・Yahoo防災アプリ）（市役所3階 防災情報通信室、防災・原子力課執務室）

※エリアメール、Yahoo 防災アプリは10月28日（土）のみ実施

8 訓練スケジュール

【緊急事態区分：警戒事態（AL）、施設敷地緊急事態（SE）、全面緊急事態（GE）、OIL（放射性物質放出後）】

		14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:15												
緊急事態区分 [EAL]		AL、SE									※スキップ												
10月27日 (金曜日)	柏崎市災害対策本部運営訓練	訓練																					
	オフサイトセンター運営訓練	訓練																					
	緊急時通信連絡訓練	← 随時通信体制保持 → ●TV会議									●TV会議												
		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00				
緊急事態区分 [EAL]		SE、GE									※スキップ	SE、GE+OIL											
10月28日 (土曜日)	柏崎市災害対策本部運営訓練	訓練										訓練											
	オフサイトセンター運営訓練	訓練										訓練											
	緊急時通信連絡訓練	← 随時通信体制保持 → ●TV会議									●TV会議												
		13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30												
緊急事態区分 [EAL]				AL		SE																	
10月31日 (火)	PAZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（保育園）			●保護者へ迎への要請 ●保護者へ引渡し		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
				●保護者へ迎への要請 ●保護者へ引渡し ●屋内退避		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
緊急事態区分 [EAL]				AL		SE		GE+OIL															
11月1日 (水)	UPZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（保育園）			●保護者へ迎への要請 ●保護者へ引渡し		●屋内退避		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難															
				●保護者へ迎への要請 ●保護者へ引渡し ●屋内退避		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
緊急事態区分 [EAL]				AL		SE																	
11月8日 (水)	PAZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（学校）			●保護者へ迎への要請 ●保護者へ引渡し		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
				●保護者へ迎への要請 ●保護者へ引渡し ●屋内退避		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
緊急事態区分 [EAL]				AL		SE		GE+OIL															
11月9日 (木)	UPZ内の学校等における保護者への引渡し訓練（学校）			●保護者へ迎への要請 ●保護者へ引渡し		●屋内退避		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難															
				●保護者へ迎への要請 ●保護者へ引渡し ●屋内退避		●引き渡せなかった児童園児を教職員引率のもとバスで避難																	
		7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00
10月28日 (土)	PAZ内住民の船舶避難訓練 【西中通地区】	●職員出動	●訓練住民の乗船・避難開始			●避難経由所到着			●避難経由所到着			●帰泊											
	PAZ内住民のヘリ・バス避難訓練 【二田・中通地区】			●情報収集・伝達訓練（要配慮者の可否確認等）	●職員出動	●訓練住民の避難開始			●避難経由所到着	●避難所到着													
	安定ヨウ素剤緊急配布訓練	●職員出動	●バス避難集合場所に到着した方から順次配布																				
	UPZ内住民の屋内退避訓練 【UPZ全地区】											●屋内退避訓練開始			●訓練終了								
	広報活動訓練	●防災行政無線放送（西中通地区限定：避難指示）		●防災行政無線放送（中通地区限定）		●防災行政無線放送（市内一斉：避難指示、屋内退避開始）		●緊急連絡メール・エリアメール送信		●ホームページ公開、LINE、SNS、Yahoo防災アプリ													
		7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00
10月29日 (日)	UPZ内住民の一時移転訓練 【高田地区】	●一時移転指示	●一時移転開始（自家用車）	●一時移転開始（バス）	●スクリーニングポイント到着			●避難経由所到着			●帰泊												
	安定ヨウ素剤緊急配布訓練	●職員出動	●バス避難集合場所に到着した方から順次配布																				
	スクリーニング・簡易除染訓練	●スクリーニング・簡易除染訓練																					
	広報活動訓練	●防災行政無線放送（高田地区のみ：一時移転指示）																					

9 訓練概要

(1) 柏崎市災害対策本部訓練

新潟県災害対策本部運営訓練に併せて、国、県、市町村等の連携、手順の理解を重点としたシナリオ型による訓練を実施した。

1日目は地震が発生してから施設敷地緊急事態要避難者の避難が開始されるまで、2日目は全面緊急事態までを想定し、災害の初動対応や国・県とのTV会議による防護措置の決定、県総合防災情報システムを活用した県・市町村間の被害状況などの情報共有を実施した。



本部運営訓練の様子

○災害対策本部会議、TV会議等

- ▶ 柏崎市災害対策本部会議、原子力災害警戒本部会議、原子力災害対策本部会議
- ▶ 新潟県災害対策本部会議（TV会議）
 - ・施設敷地緊急事態における防護措置実施要領(案)の決定
 - ・施設敷地緊急事態の避難開始時期の決定
 - ・SE避難状況、全面緊急事態の防護措置の検討
- ▶ 原子力災害対策本部・第4回非常災害対策本部合同会議（国主催TV会議）
- ▶ 原子力災害合同対策協議会全体会議（国主催TV会議）

(2) オフサイトセンター運営訓練

オフサイトセンターからの要請に基づき、オフサイトセンター機能班として職員を派遣し、オフサイトセンターでの訓練に参加した。また、現地災害対策本部長となる副市長及び連絡員を派遣し、市現地対策本部を設置。オフサイトセンターで行われた原子力規制委員会・内閣府原子力事故現地合同対策本部及び現地事故対策連絡会議合同会議に出席、会議結果をZOOMで市原子力災害対策本部会議と共有した。

(3) 緊急時通信連絡訓練

国、新潟県災害対策本部、合同対策協議会及び関係市町村災害対策本部との原子力防災ネットワークを使用したTV会議を実施。また、国や県、電力事業者などの関係機関と緊急時の通報連絡方法を使った相互の通信連絡訓練を実施した。

(4) 学校等における保護者への引渡し訓練

PAZ及びUPZ内の学校等において、緊急時における児童園児の避難が円滑に行われるよう避難手順を確認するため、原子力災害時の保護者への引き渡しから引き渡せなかった児童等のバスによる避難訓練を実施した。



引き渡せなかった児童のバス避難の様子

○訓練実施場所

- ▶ PAZ：榎原小学校、はらまち保育園
- ▶ UPZ：新道小学校、高田保育園

○訓練内容

- ▶ 保護者へ児童等の迎えを要請
- ▶ 迎えに来た保護者へ児童等の引渡し
- ▶ 避難時の安定ヨウ素剤の持ち出し
- ▶ 引渡しのできなかった児童等をバスに乗車させ、教職員等引率のもとバス避難

(5) PAZ内の住民避難訓練

地震との複合災害の発生を想定し、西中通、中通、二田地区において警戒事態から全面緊急事態での避難指示の発出に至るまでを想定した広域避難訓練を実施した。



スマートフォンを使った受付の様子

○訓練実施場所

- ▶ 西中通地区（船舶避難）

バス避難集合場所に集合し、バスで柏崎中央海水浴場・柏崎港に向かい、海上自衛隊又は海上保安庁の船舶に乗船し、直江津港まで移動。直江津港から再びバスに乗り換えて避難先の妙高市に避難した。なお、海上自衛隊については、エアクッション型揚陸艇で、中央海水浴場から海上の輸送艦まで住民を輸送した。

避難経由所	妙高杉ノ原スキー場
避難所	妙高原メッセ、妙高原スポーツ公園

- ▶ 中通地区（バス避難）

バス避難集合場所に集合し、バスにより避難先の湯沢町まで避難した。

※大型ヘリコプターでの湯沢町までの避難を計画していたが、悪天候のため中止。

避難経由所	湯沢カルチャーセンター
避難所	旧土樽小学校、湯沢町公民館

▶ 二田地区（ヘリコプター・バス避難）

バス避難集合場所に集合し、バス及びヘリコプター2機により、避難先の村上市まで避難した。ヘリコプターは西山総合グラウンドから三条・燕総合グラウンド（三条市）まで飛行、バスに乗り換えて村上市まで避難した。

避難経由所	パルパーク神林
避難所	神林農村環境改善センター、村上農村環境改善センター

○訓練内容

- ▶ 住民は、防災行政無線及びエリアメール等による避難指示を契機にバス避難集合場所に集合し、バス避難支援隊による受付及び安定ヨウ素剤の配布を受けた後、バス等により避難経由所を経由して避難所への広域避難を行った。避難経由所では、広域避難先遣隊が、避難所では受入先市町職員がそれぞれ受付を実施した。
- ▶ 各会場において、新潟県防災DXアプリの二次元コード（QRコード）を使ったスマートフォンによる受付を行った。参加者には、事前にアプリへの氏名などの避難者情報の登録を依頼し、訓練当日は参加者がスマートフォンで表示した二次元コードを管理用端末で読み取るだけで受付が可能となった。なお、スマートフォンによる受付が困難な参加者については、二次元コードが書かれた避難者カードを用意し、スマートフォン同様に管理用端末で読み取るだけで受付を通過できるようにし、受付の効率化・簡略化を図った。
- ▶ 住民避難の開始前に警戒事態、施設敷地緊急事態を想定し、中通、二田地区において避難行動要支援者の安否確認、福祉車両による避難訓練を併せて実施した。
- ▶ バス避難のほかに道路交通障害を想定した船舶避難や道路寸断による地区の孤立を想定したヘリコプターでの避難を行った。
- ▶ 各地区ともそれぞれ避難所を2か所用意し、避難経由所での振り分けを行った。
- ▶ 消防団による避難支援訓練（バス避難集合場所における避難者の誘導、交通整理）を行った。

(6) UPZ内住民の屋内退避訓練

防災行政無線等の指示により、各家庭で屋内退避訓練を実施した。

(7) UPZ内住民の一時移転訓練

放射性物質放出後の一時移転指示を想定したバス又は自家用車による広域避難訓練を実施した。



バス避難の様子

○訓練実施場所

▶ 高田地区

スクリーニングポイント	直江津港南ふ頭緑地公園
避難経由所	ユートピアくびき希望館
避難所	三和保健センター

○訓練内容

- ▶ 防災行政無線（高田地区限定放送）により、住民に一時移転を指示。住民は、放送を契機にバス又は自家用車により避難先（上越市）への避難を開始。避難経由所へ向かう途中のスクリーニングポイントにおいて、新潟県が行うスクリーニング・簡易除染訓練に参加。その後、避難経由所を経由して避難所に避難。避難経由所では、広域避難先遣隊が、避難所では受入先市職員がそれぞれ受付を実施した。
- ▶ 自家用車避難訓練は、参加者の自家用車を使い、それぞれの自宅から避難先までの一時移転訓練を実施した。
- ▶ 各会場において、新潟県防災DXアプリの二次元コード（QRコード）を使ったスマートフォンによる受付を行った。また、スクリーニングポイントでは車番認証システムにより、車のナンバーを読み取り、自動的にアプリに通過記録を反映させた。
- ▶ 消防団による避難支援訓練（バス避難集合場所における避難者の誘導、交通整理）を行った。

(8) 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練（住民避難訓練・一時移転訓練と同時に実施）

バス避難集合場所での受付時に安定ヨウ素剤受取希望の有無、服用可否等を確認し、安定ヨウ素剤（代替品：あめ玉）を配布。なお、自家用車避難者に対しては県がスクリーニングポイントで配布した。

(9) スクリーニング・簡易除染訓練

一時移転訓練と併せ、スクリーニングポイント（直江津港南ふ頭緑地公園）において、県が実施する住民及び避難車両のスクリーニング及び簡易除染に住民が参加した。

(10) 広報活動訓練

○防災行政無線

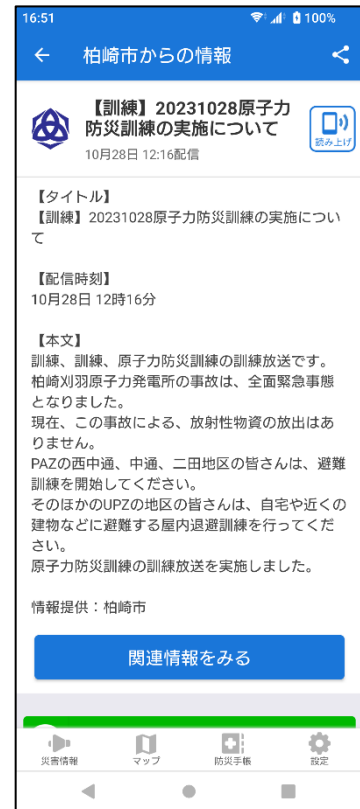
- ▶ 訓練事前告知放送（前日、当日）、訓練放送（P A Z 避難、U P Z 屋内退避指示、U P Z 一時移転指示）、屋内退避訓練終了放送を実施

○緊急速報メール・エリアメール

- ▶ 訓練放送（P A Z 避難、U P Z 屋内退避指示）を実施

○その他

- ▶ 市ホームページ、ツイッター、フェイスブックに訓練情報を掲載
- ▶ Y a h o o 防災アプリでの配信



10 訓練参加者等の主な感想・意見

(1) 災害対策本部運営訓練、オフサイトセンター運営訓練、緊急時通信連絡訓練

(参加職員)

- ▶ 今後は冬期間の積雪のある状況下など、より過酷な条件下のもとでの訓練も必要だと感じた。
- ▶ 担当部署による（部分的な）机上や実地訓練等の必要性を感じた。
- ▶ 災害時であるため、本部会議での発言内容をもっと簡潔にする必要がある。
- ▶ 県災害対策本部会議等において、発言者によってPAZを「ピーエーゼット」又は「パズ」と発言しており、主要な用語の読み方は統一しておいた方が良い。
- ▶ 県災害対策本部会議において、各部の状況報告が早口で聞き取れない所があった。テレビ会議のタイムラグも意識して、少しゆっくりと話す必要がある。
- ▶ 国、県との連携は問題なく行われ、実際の災害時においても意思疎通ができる体制が整っていることを実感した。
- ▶ オフサイトセンター運営訓練は、事前の要員研修・プレ訓練があり、用語の理解を深め、錬度が上がって本番も落ち着いて取り組めた。また、メンバーと顔を合わせるたびに連携も深まった。有事に向けた平時からの関係づくりも大事だと感じた。
- ▶ オフサイトセンターの機能班について、班によっては国・県からの要員が到着するまでの間、人員が手薄な班があった。早期に参集できる周辺自治体からの構成員を増やしたほうがよいと感じた。

(2) 学校等における保護者への引渡し訓練

- ▶ タイムスケジュールがある程度決まっていたので、保護者が早めに迎えに来ていた。実際に起きた場合、どのような対応になるかについて不安が多い。
- ▶ 今回の引渡し訓練では、保護者がわりと早く迎えに来たと思う。実際の災害時にはもっと時間がかかると思うし、バスでの避難児童が増えるのではないかと思う。
- ▶ 引渡し中止後に保護者が来られたときの対応はどのようにしたらよいのか。バスが来るまでの間であれば引渡しは可能なのか、それとも中止なのか。不明確な部分が多々ある。
- ▶ 地域住民、保育園・中学校との連携は必要ないのか。実際に起きたことを考えると、地域全体で行うことも必要なのではないか。
- ▶ 子を持つ職員の対応はどうなるのか。職場優先？家庭優先？
- ▶ 保護者の迎えの車による近場の渋滞の解消方法が課題
- ▶ 実際に訓練で動いてみるのが重要。紙面だけではやはり分からないことが多い。
- ▶ 市とどのように連携をするかが分かり、大変有意義だった。何年かに一度は継続して行う必要があると感じた。
- ▶ 勤務をしている職員も市内在住者は我が子を迎えに行く場合も出てくる。少ない人数でも落ち着いて児童を安全に避難誘導できるよう訓練は今後も必要である。
- ▶ 本当に原発事故が発生し、保護者の迎え車両が集中したときに、事故なく、保護者同

士がゆずり合い、駐車や歩行移動ができるのかどうか心配である。

- ▶ 子どもたちが安心して待てるように声を掛けることができた。
- ▶ 兄弟関係が同じバスに乗ったことで下の子が安心できていた。
- ▶ 事前に役割分担、やるべきことを確認していたため、手分けをして訓練にスムーズに取り組むことができて良かった。
- ▶ 避難バックの中に乳幼児のミルクやおやつ等の準備まで気づかなかったが、今回のことでそこまで確認することができて良かった。
- ▶ 待ち時間が長かったが、防災に関する紙芝居を読み退屈にならないようにできたのは良かった。
- ▶ 普段行事の時駐車場が混み合わないよう、玄関に入ってくる前にマイクで呼んでスムーズに引き渡しができる。
- ▶ 災害の際に小さいクラスは極力オムツがいいと思った。トイレ中の子たちは何時間もバスに乗ってられない。
- ▶ 子どもたちが訓練開始から1時間位待機するが、迎えを待つ間の水分補給について。今回は秋で暑さはないが、暑い時期は必要だと思うし、雨具を着せるのも暑い。
- ▶ 午前中や給食時など、他の時間帯での訓練はどうか。いろいろな時間で試すのもよいと思う。
- ▶ 実際に災害が起きたときに保護者に受け渡す時、子どもにくつをその都度履かせている時間がないのではないかと感じた。迎えが来ないとしても室内で外履きに履き替えていたほうがスムーズなのかもしれないと思う。
- ▶ トイレに連れていく、カラー帽子をかぶせるなど、園独自の細かな配慮は必要。
- ▶ 引き渡し受付とバスに乗車する子の避難口を分けたことで混乱とまちがいを避けられた。
- ▶ 放射性物質がなぜ怖いかなどの子どもに伝えることが難しいと思った。不安を感じる子どもたちにどのようにどの程度まで伝えるべきか？
- ▶ 各クラスで待機する時間が長く、周りの様子が見えなくて不安だった。もう少し園内の放送をこまめに入れてもらえると良かったと思う。

(3) P A Z ・ U P Z 住民避難訓練

(参加職員)

- ▶ 住民の受付・安定ヨウ素剤の配布対応は、1か所2～3人の職員配置では不足している。
- ▶ 無線対応等に気を取られ、住民の誘導など重要な業務が出来なかった。
- ▶ 二次元コード（QRコード）を事前に登録していた住民の受付はスムーズであった。一方でスマートフォンの通信環境などで上手く表示できない場合への対応に時間がかかる場面があった。また、管理用端末の台数が1か所1台では少ない。
- ▶ 船舶避難訓練（LCAC）において、待ち時間が多く、説明も不足していたため住民が不安を感じていた。

- ▶ 住民用マスク、筆記用具が不足していた。

(参加住民の主な意見 (他の意見は後述))

- ▶ 多くの人に参加してもらい、不具合があればその都度改善してほしい。
- ▶ 時間がかかり過ぎだと思った。
- ▶ QRコードよりマイナンバーカードを使用した方がよい。
- ▶ 人数確認と点呼をもっとはっきり案内した方がよい。
- ▶ 若い世代の訓練への参加が非常に少ないので、参加できるような仕組みを考えてもらいたい。
- ▶ 本当の災害時は今回の休日訓練のようにスムーズにはいかないと思う。平日に訓練してもよいのではないか。
- ▶ 高齢者のバスまでの移送をどうするか、いざという時にどうするか町内会で考える必要があると思います。
- ▶ 受付に時間がかかりすぎた。
- ▶ 職員のマンパワーが絶対的に足りない。不安を払拭するためには、もう少しきめ細やかな対応が必要であるため、人数を増やすなど日ごろからの対応をしてもらいたい。
- ▶ 足の不自由な人やお年寄りなど身体が思うように動かない人のことも考えた方がよい。
- ▶ 集合時間からバス出発まで長く待たされた。説明不足だった。
- ▶ 災害が発生して、自家用車で避難となった場合、高速インターで渋滞が発生するのではないか。
- ▶ スクリーニングポイントや避難経路所での案内・看板が不足していると感じた。道が分かりづらい。
- ▶ 万一の事故避難を想定してもっと大規模な取り組みをしたらどうかと思う。
- ▶ 訓練の流れが十分に周知できていないと思う。

11 訓練で見えた課題と対策

(1) 災害対策本部運営訓練、オフサイトセンター運営訓練、緊急時通信連絡訓練

・伝わりやすい・簡潔な言葉遣いについて

【課題】災害時の緊迫した状況であることを踏まえ、間違いを起こさない言葉遣い、明確で簡潔な報告を常に意識する必要がある。また、用語は読み方を統一し、間違いが起らないようにしておく必要がある。

【対策】原子力災害時に想定される報告事項や報告する際の留意点を整理し、訓練シナリオに反映しながら、訓練を重ねていくことで職員に意識付けていく。

・ **各部の個別訓練について**

【課題】訓練は災害対策本部の対応が主となっている。災害への対応力の向上を図るため、各部の個別訓練を実施する必要がある。

【対策】各部において初動対応の再確認を行うとともに具体的な災害の発生状況を設定し、本部運営訓練に併せて、各部での個別訓練の実施を検討する。

・ **継続した要員研修の実施について**

【課題】オフサイトセンターに派遣する職員などに対する原子力災害に関する基礎的な知識や実際の活動に関する継続的な訓練が必要である。

【対策】新潟県を通じて、オフサイトセンターの運営に関わる継続的な訓練又は研修の実施を求めていく。

(2) **学校等における保護者への引渡し訓練**

・ **継続した訓練について**

【課題】原子力災害を想定した引渡し訓練を継続して行い、未実施の学校においても実施していく必要がある。

【対策】まだ実施していない保育園・学校等に訓練への参加を呼びかけ、順次訓練を行っていく。

(3) **PAZ・UPZの住民避難（一時移転）訓練**

・ **バス避難集合場所等の対応職員の不足について**

【課題】毎年、訓練に参加した職員から、1か所2～3人の職員では、対応人員が不足するとの意見があがる。

【対策】人員には限りがあり、増員は難しいことから、受付業務を見直し、効率化・簡略化を進める。

・ **ICTの活用について**

【課題】二次元コード（QRコード）を使った受付を行った。アプリに避難者情報を事前に登録しておく必要があり、事前の登録は各地区とも参加者の半数程度であった。受付業務においては、管理用端末で二次元コードを読み取るだけであり、受付時間の短縮・効率化が図られていた。しかし、避難者、受付者ともにスマートフォンを使用するため、電波状況により二次元コードを表示できない、読み取れても登録手続きができないといったトラブルがあった。また、事前登録方法に関する問い合わせも多くあった。

【対策】二次元コードを使用した受付は、電波状況に左右されるなどの課題はあるが、受付自体の効率化は図られていた。導入した場合は、事前登録率を高めしていく必要があるが、アプリのインストールや事前登録のハードルは高いと

思われる。普及率の高いマイナンバーカードと組み合わせるなど、ICTの活用について更なる検討を要望する。

・ **訓練参加者への事前説明について**

【課題】参加者から、事前の説明が不足していたとの意見が複数寄せられている。

【対策】訓練参加者に対しては、町内会等を通じて資料の配布のみになってしまっていた。今後の訓練では、参加者を対象とした事前説明会の開催を検討する。

・ **訓練タイムスケジュールの見直しについて**

【課題】バス・船舶等で長い待ち時間が発生してしまっていた。

【対策】訓練のタイムスケジュール上、避けられないものを除いて、極力効率的なタイムスケジュールを検討する。また、待ち時間を活用した当日の訓練予定の説明や原子力防災に関する説明をできるように検討する。

・ **避難行動要支援者の避難訓練について**

【課題】避難行動要支援者の避難やバス避難集合場所までの移動が困難な高齢者の避難が不安との意見が多い。

【対策】避難行動要支援者等の避難については、地域の方の協力が必要不可欠であることから、避難行動要支援者等の避難について、自主防災組織や町内会、近隣住民を巻き込んだ訓練を計画する。また、可能な限り、避難対象となる方の訓練参加を呼び掛けていく。

・ **各会場の案内・案内看板の不足について**

【課題】訓練会場（スクリーニングポイント、避難経路所、避難所）への案内・案内看板の不足や道が分かりづらいとの意見がある。

【対策】自家用車での避難が基本となるため、実災害に備えた避難経路所等への案内看板の整備を新潟県に要望していく。

・ **船舶・ヘリ避難訓練について**

【課題】関係機関の協力により、船舶・ヘリコプターでの避難訓練を実施した。複数の避難方法を確保することは重要であることから、今後も様々な状況を想定した避難訓練を実施し、関係機関との連携を高めていく必要がある。

【対策】バス以外の方法による避難訓練の実施を新潟県に要望していく。

・ **自家用車避難訓練について**

【課題】昨年度訓練よりも参加台数を増やして（10台→23台）訓練を実施した。

自家用車での避難を基本としている中で、避難経路の渋滞を心配する住民の

声があることから、自家用車での避難訓練を継続して行っていくとともに訓練の規模を拡大していく必要がある。

【対策】バスによる避難訓練と並行して、引き続き自家用車での避難訓練の実施と規模の拡大を新潟県に要望していく。また、スムーズな車両避難の誘導や渋滞の解消ができるよう警察等の関係機関と連携した訓練を検討していく。

・避難経由所の周知について

【課題】自家用車避難において、避難経由所に向かうところ直接避難所に向かった方がいた。なぜ避難経由所を通るかという周知が不足していた。

【対策】訓練参加住民に対して、避難経由所を設置している目的をしっかりと説明するなど、直接避難所に行かないような対応を検討していく。

・幅広い年齢層の訓練参加について

【課題】地区役員中心の参加となる地区が多く、若年層の訓練参加が少ない。

【対策】避難先で原子力防災に関するイベントの開催や、希望者のみ避難先まで避難するなど、参加しやすくなるような方法を検討していく。

(4) 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練

・緊急配布方法について

【課題】訓練のため全員安定ヨウ素剤を持っていない想定で対応するため、バス避難集合場所等での人員不足の課題がある。実災害時の大人数への配布を想定した緊急配布手順の簡略化を検討していく必要がある。

【対策】配布手順の簡略化及び効率化を図るために大人数への配布を想定した訓練とするなど配布手順の課題を洗い出していく。

・緊急配布場所での訓練実施について

【課題】安定ヨウ素剤の緊急配布場所候補を決定したため、訓練を行う必要がある。

【対策】緊急配布場所の設営から配布までの一連の流れを想定した訓練を行い、緊急配布に係る課題を洗い出していく。

(5) スクリーニング・簡易除染訓練

・スクリーニングポイントの周知について

【課題】自家用車での参加者に対してはスクリーニングポイントまでの地図を渡していたが、慣れない土地であり、一度通り過ぎてしまったという参加者もいた。実災害を想定し、必ずスクリーニングポイントを通過できるような誘導方法を検討する必要がある。

【対策】新潟県にスクリーニングポイントへの誘導方法の検討を求めるとともにUPZにおける原子力災害時の避難行動に関する周知を継続していく。

12 訓練の様子

<p>本部運営訓練</p>	<p>本部運営訓練 (テレビ会議)</p>	<p>保護者引渡し訓練 (小学校)</p>
<p>保護者引渡し訓練 (保育園)</p>	<p>引き渡せなかった児童のバス避難</p>	<p>避難所での受付 (QRコード)</p>
<p>福祉車両での避難 (車椅子)</p>	<p>ストレッチャー搬送</p>	<p>スクリーニング訓練 (車両検査)</p>
<p>船舶避難訓練 (巡視船)</p>	<p>船舶避難訓練 (LCAC)</p>	<p>ヘリコプター避難訓練</p>

13 訓練参加者数

10月27日(金)、28日(土)本部運営訓練等

		本部員	連絡員・機能班	リエゾン	オブザーバ	防災・原子力課 (選管・監査含)	合計 (延べ人数)
本部運営訓練	10月27日	15	30	2	1	15	63
	10月28日	14	0	2	0	13	29
OFC運営訓練	10月27日	2	5	-	-	-	7
	10月28日	3	5	-	-	-	8
合計		34	40	4	1	28	99

11月8日(水)、9日(木) 学等の保護者引渡し訓練

訓練会場		児童・園児			職員				合計	うちバス 乗車
		引渡し	バス避難	計	市本部	教職員	教職員 (バス乗車)	計		
榎原小学校	11月8日	145	13	158	3	18	3	24	182	16
新道小学校	11月9日	73	92	165	3	1	16	20	185	108
合計		218	105	323	6	19	19	44	367	124

10月31日(火)、11月1日(水)学校等の保護者引渡し訓練

訓練会場		児童・園児			職員				合計	うちバス 乗車
		引渡し	バス避難	計	市本部	保育士	保育士 (バス乗車)	計		
はらまち保育園	10月31日	54	30	84	5	2	12	19	103	42
高田保育園	11月1日	38	28	66	2	5	10	17	83	38
合計		92	58	150	7	7	22	36	186	80

10月28日(土)、29日(日)住民避難訓練

訓練項目		西中通 10/28		中通 10/28		二田 10/28		高田 10/29		合計
住民避難訓練 等	バス 船舶(LCAC)	LCAC (バス2台)	55	バス(2台)	61	バス(2台)	53	バス(2台)	62	231
	船舶(巡視船) ヘリ・自家用車	巡視船 (バス1台)	33	ヘリ(中止バス 1台に切替)	29	ヘリ2機 (バス2台)	16	自家用車 (23台)	46	124
	消防団	11分団	17	12分団	10	19分団	13	5分団	15	55
	計	-	105	-	100	-	82	-	123	410
市職員 等	広域避難先遣隊	妙高市	5	湯沢町	5	村上市	4	上越市	6	20
	緊急時地区派遣隊	-	3	-	3	-	3	-	3	12
	バス避難支援隊	-	9	-	9	-	8	-	6	32
	防災・原子力課員	-	0	-	1	-	1	-	1	3
	本部等市職員 ※ 合計のみ	-	-	-	-	-	-	-	-	21
	計	-	17	-	18	-	16	-	16	88
合計		-	122	-	118	-	98	-	139	498

10月28日(土)住民避難訓練

屋内退避訓練	約64,000人
※R5.4.1現在 UPZ内人口	

訓練合計

10/27・28	99	本部
10/28・29	498	住民避難
10/31・11/1	136	保育園
11/8・9	367	小学校
合計	1150	

【参考】R4訓練合計

10月24日	49	本部
10月25日	130	学校等
10月26日	241	学校等
10月29日	287	住民避難
11月8日	89	学校等
合計	796	